

近畿大学農学部 緑友会会報

第28号

発行所

近畿大学農学部緑友会
広報・編集委員会
編集委員長 廣岡 義博
631-8505 奈良市中町3327-204
TEL: 0742 (43) 1511
http://www.nara.kindai.ac.jp/

11月の懇親会でお目にかかれることを楽しみにしています

緑友会会長 森 本 正 則



昨年同様ですが、今後も卒業生のみならずが気軽に農学部にお越し頂き、現役の学生と話が出来る空間として学生ホール「つながる館」を利用して頂き

学生達へのエール

農学部長 森 山 達 哉



特に学生諸君の貴重な学生生活の制限には心が痛む思いです。友達作りや課外活動、教室での何気ない会話、長期休暇での旅行での出会いなど、リアルな対人関係の中で育まれるものが制限されました。昨年の夏の甲子園で東北勢として初優勝した仙台育英高校の須江航監督のインタビュー時の名言、「青春って、すこく密なので」という一言が胸に刺さる思いです。しかし、このような大変な状況下でも、一つ一つ経験を積み重ねてきた学生諸君の頑張りや、今後の人生に對して、私たち教職員は大きなエールを送りたい。そして、ポストコロナ時代の幕開けと共に、再び生き生きとした学生生活を送って頂きたい。そしてそれを私たちは全力で応援したい。そのように思っています。奇しくも本学はポストコロナ時代の本格始動ともいえる2025年に100周年を迎えます。その記念すべきタイミングを皆で盛り上げるためにも、是非とも卒業生の方々の暖かいご支援・ご協力が重要です。大学にとって、卒業生の方々は何者にも代えがたい宝物だと思えます。引き続きのご支援・ご協力、ご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

ここ最近、大学の授業を含めさまざまな社会活動が以前の様子をとり戻しつつあります。緑友会では、昨年11月に懇親会を企画しましたがコロナ感染防止対応ということで実施が叶いませんでした。しかし、飲食を伴わない講演会という形で集まりを実施することが出来ました。今年の11月には、総会の実施と共に盛大に懇親会を実施したいと考えております。コロナ禍で定着したオンラインを使った会議や授業は、移動にかかる時間や経費を削減し利便性をもたらした反面、対面でのコミュニケーション経験の機会損失を生み出しました。大学生などの若者にとって対面でのコミュニケーションを通じた相手の想いや感情をつかむ機会を失うことは、彼らが社会に出てから影響が出てきそうに思えます。飲み会や懇親会などのイベントは、対面でのコミュニケーションスキルを高める良い機会ともなるかと思えます。卒業生のみならずには世代を問わず積極的な緑友会活動への参加をお願いいたします。

さて、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)も令和5年の5月に2類から5類へと変更され、この世界規模のパンデミックもようやく終息しつつあります。しかし、このパンデミックの間、社会生活は甚大な影響を受けました。大学での教育研究活動も大きな影響を受け、

り上げるためにも、是非とも卒業生の方々の暖かいご支援・ご協力が重要です。大学にとって、卒業生の方々は何者にも代えがたい宝物だと思えます。引き続きのご支援・ご協力、ご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

農学研究科の近況

大学院農学研究科長 細川 宗 孝



農学部緑友会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年10月より研究科長を拝命し、必死に走っているところでありますが、あらためて脈々と受け継がれている緑友会の豊富な人脈が在学生の大きな財産になっていくことを感じています。現在、農学研究科には博士前期課程192名、博士後期課程11名が在籍しております。コロナ禍での大学や学生の孤立化も終わり、ようやく研究室にも活発な議論の雰囲気が戻って参りました。本年度から開始された農学研究科の減免制度では、修士課程2年生10名の学費半額免

除が決定しました。博士後期課程においても、4名の学生に対し1年間の学費免除が決定しました。また、この制度と同時に開始された全学の減免制度によって、博士後期課程1年生の学生1名に対し3年間の学費免除が決定しました。このような学費減免制度は早くも効果を発揮し、学術振興会特別研究員の応募数の増加に繋がっております。こうした活気の中で、学内の「教育改革・学生支援プロジェクト助成金」に採択頂き、学生にコミュニケーションと自主的な学びの場を提供することを目的に活動を開始することができました。研究分野の垣根を超え、食欲に新しいスキルを身につけ、各学会のトップランナーとして活躍してもらいたいと思っております。農学研究科がさらに上昇できるような、引き続き見守って頂き、ご指導を頂きますようお願い申し上げます。

大学創立100周年に向けて

事務局長 仲 上 徹



農学部緑友会会員の皆様におかれましては、日頃から本学の教育研究活動に多大なるご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。キャンパスはコロナ禍前

の状態へ徐々に戻ってきてますが、コロナ禍で得たさまざまな教訓をもとに、教育方法は変化してきています。学生に対してはノートパソコンを必須化し、学習資料の多くが紙ではなくデータとして共有されます。学生によっては「KICSオンデマンド」と称したオンデマンド授業も受講いたしました。このように多くの授業でノートパソコンが必要なため、

令和4年度 緑友会賞一覧

博士後期課程

専攻	氏名	論文題目
【最優秀賞】 水産学専攻	土井 慧 祐	群れで遊泳する魚体周辺の流れ場と遊泳効率

博士前期課程

専攻	氏名	論文題目
農業生産科学専攻	小野内 美 佳	トウガラシで特定したバグモウイルス抵抗性遺伝子の特性解析とその育種利用
	新家 鉄 平	体細胞融合による片側ゲノムの倍数化を利用したアブラナ属3基6倍体雑種(AABBCCゲノム)の遺伝的多様化
	谷口 満理奈	沖縄県でナス科野菜に被害を及ぼすウイルスの特性解析
水産学専攻	岸田 成 実	石垣島におけるアオウミガメの産卵期の採餌生態
	豊川 治	沿岸養殖漁場の有機物分解力に与える雨水の影響
応用生命化学専攻	杉坂 如 水	ピレトリン生合成酵素の基質認識機構の解明にもとづく阻害剤の創製
	米田 菜 織	超好熱性古細菌Pyrococcus abyssi由来N-アセチル-D-アミノ酸デアセチラーゼの酵素学的諸性質の解明
	和久田 悦 生	ヤーコン由来セスキテルペンラクトン誘導体の昆虫摂食阻害活性と食害に対する化学的防御における役割
環境管理学専攻	石若 直 人	水田生物群集の機能群多様性に及ぼす温度上昇と農薬曝露の影響
	松井 啓 祐	森林害虫マイマイガの色に対する産卵選択性
バイオサイエンス専攻	堀 百 香	イネの免疫応答におけるMAPKを介したPUB44の制御機構の解析
	寺田 百合香	リパーゼを用いた α,β -ジヒドロゼレンポールおよびエポキシ体のトランスエステル化の立体選択性と光学活性体の合成、および天然物合成への展開
	佐藤 颯 花	イネ白葉枯病菌によるXal依存型抵抗性阻害機構の解析

本年11月に近畿大学農学部 緑友会第11回総会・懇親会 を開催いたします。

近畿大学農学部卒業のみならず、ますますご繁栄のことお慶び申し上げます。みなさまの母校農学部も、ここ最近の近畿大学の発展に大きく寄与して

ります。社会人となった卒業生の中には、近大農学部OBのつながりをビジネスに活かして活躍の方も大勢いらっしゃいます。

緑友会は、近畿大学農学部と卒業生と共に歩んで参りま

今後の社会情勢によっては中止させて頂く場合がございます。その際は随時ホームページにてお知らせいたします。



緑友会は、近畿大学農学部と卒業生と共に歩んで参りま

準備の都合上、電子メール (ryokujin@nara-kindai.ac.jp) または電話 (0742-14317273 (内線2030)直通) にて出席のご一

ご厚志を賜りますようお願い申し上げます。

ぜひ多くの卒業生みなさまの参加をお願い申し上げます。



学科の近況

学科の近況

農業生産科学科

学科長 野々村 照雄



当学科では、令和5年4月から新入生118名を迎え...

水産学科

学科長

小林 徹



当学科では、令和5年3月31日をもって15年間にわたり...

応用生命化学科

学科長

上垣 浩一



当学科では、143名の新生を迎え、新年度をスタート...

食品栄養科学科

学科長

近藤 高史



当学科では、今春に新入生76名および...

環境管理科学科

学科長

松本 光朗



当学科では、里山関連団体の活動を通して...

対応もずいぶん緩和され、基本的に対面での授業や学祭...

卒業生から初めての教授就任となる快挙です。一方、3月末...



生物機能科学科

学科長

田茂井 政宏

当学科では、松寄建一郎先生(分子生物学研究室)と佐古香織先生(植物分子生理学研究室)がそれぞれ講師に昇任...

研究)がそれぞれ講師に昇任されました。さらに、新たに西原秀典准教授(動物分子遺伝学研究室)をお迎えしました。



育面で学科をさらに発展させるべく努力しておりますので、今後とも卒業生の皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学科研究室・教員

農業生産科学科

- 作物学(飯嶋 盛雄・山根 浩二・廣岡 義博)
育種学(種坂 英次・柴山 拓司)
園芸植物学(神崎 真哉・小枝 壮太)

- 植物感染制御工学(松田 克礼・野々村 照雄)
昆虫学(香取 郁夫・米谷 衣代)
農業経営経済学(大石 卓史・増田 忠義)
花卉園芸学(細川 宗孝・山崎 彬)

水産学科

- 水産増殖学(澤田 好史・石橋 泰典・亀甲 武志)
水産生物学(小林 徹・小林 靖尚・渡邊 俊・竹内 綾)
水族環境学(江口 充・永田 恵里奈・谷口 亮人)

- 漁業生産システム(光永 靖・鳥澤 真介)
水産利用学(安藤 正史・福田 隆志・田中 照佳)
海棲哺乳類学(酒井 麻衣)

応用生命化学科

- 応用微生物学(上垣 浩一・倉田 淳志)
食品微生物学(白坂 憲章・福田 泰久)
応用細胞生物学(森山 達哉・財満 信宏)

- 生物制御化学(松田 一彦・森本 正則・伊原 誠)
生命資源化学(飯田 彰・澤邊 昭義・山下 光明)
森林生物化学(板倉 修司・梅澤 究)
学科共通(吉岡 佐知子)

食品栄養科学科

- 栄養教育学(川西 正子・明神 千穂)
臨床栄養学(木戸 慎介)
病態栄養学(伊藤 龍生)

- 公衆栄養学(森島 真幸)
給食経営管理学(富田 圭子)
生体機能学(佐久間 圭一朗)
栄養機能学(増田 誠司・竹森 久美子)
食品化学(近藤 高史)

環境管理科学科

- 水圏生態学(北川 忠生・宮崎 佑介・河内 香織)
生態系保全(早坂 大亮・ジン タナンゴナン)
環境化学(城島 透)

- 森林資源学(松本 光朗・井上 昭夫・澤島 拓夫)
国際開発・環境学(松野 裕・木村 匡臣)
環境政策学(鶴田 格・前潟 光弘)

生物機能科学科

- 植物分子生理学(田茂井 政宏・佐古 香織)
植物分子遺伝学(川崎 努・山口 公志)
動物発生工学(加藤 容子・谷 哲弥・岡村 大治)

- 生体分子化学(大沼 貴之・武田 徹)
動物分子遺伝学(佐渡 敬・西原 秀典)
分子生物学(篠原 美紀・加藤 明宣・松寄 健一郎)
生物有機化学(北山 隆)

教養・教育基礎部門

- 木村 正則・赤羽 仁志・西垣 佐理・ロバートジョーンシェリダン

下線：新任

新任の挨拶

水産学科 水産生物学研究室
助教 竹内 綾

令和5年度から水産学科に助教として着任しました。私は、ウナギがいつ・どこで・どのように産卵しているのかに興味を持ち、マリアナの海で起るウナギの産卵行動の観察を目指しています。これに成功すれば、ウナギの完全養殖技術の実用化や資源の変動機構の解明に貢献できます。

産卵地点を探すため、私は、水からDNAを検出することを生物の存在を明らかにできる環境DNA法を研究しています。本法はここ10年間で飛躍的発展を続けている一方、改良の余地が多く残されています。大海の中から産卵地点を絞り込み、産卵行動を撮影することは困難ですが、環境DNA法はむしろ、本研究に関わる手法や仮説にもブレイクスルーをもたらします。

近畿大学水産学科はマグロで有名ですが、それに匹敵する成果を出せるよう、研究・教育・運営業務に日々邁進してまいります。近畿大学の皆様、ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

食品栄養学科
契約助手 牧田有美香
4月1日付で食品栄養学科の助手として着任いたしました。牧田有美香と申します。昨年度まで学生として本学科に4年間通っており、慣れ親しんだキャンパスではあります。学生とは違う立場になり、戸惑いながら日々を過ごしております。

私自身、本学で過ごした4年間を振り返ると、多くの学びや出会いがあり、充実した学生生活を送ることができたと感じております。また、そんな充実した学生生活を送ることができたのは、支えてくださった先生方の存在があったからこそです。これからは、学生がより良い学生生活を送ることができるようサポートしていきたいと思っております。1日でも早く先生方、先生方のお役に立てるよう、努力してまいります。至らぬ点多々あるとは思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

生物機能科学科 動物分子遺伝学研究室
准教授 西原 秀典

令和5年4月1日付で生物機能科学科の動物分子遺伝学研究室に准教授として着任いたしました。西原秀典と申します。前任では東京工業大学生命理工学院にて哺乳類のゲノム情報解析に基づいた生物の進化多様性の創出機構について研究してまいりました。進化と遺伝とスケールの大きな話に聞こえますが、遺伝情報解析と生物進化の概念は、医療、育種、愛玩動物の多様性、近年ではウイルス新株出現など、私たちの身の回りに密接に関わっています。近畿大学でも脊椎動物のゲノム情報解析を幅広く展開し、生物進化の機構解明に取り組みたいと考えております。

農学部には15年間お世話になりました。授業では水産物マーケティング論を担当してまいりました。この間に、完全養殖クロマグロのビジネス化や輸出産業としての水産への期待など、それまでには考えられなかったような好展開もありました。その一方で、資源管理の強化にもかかわらず地球環境変動や外国による乱獲などの外部要因によって漁獲量が減少を続けるという残念な結果もありました。

卒業生の中には農業や水産で起業し、農学部で学んだことを活かしながらオンライン型農業や陸上養殖を実践する学生も現れました。今後は彼らの経験に学びながら、大きく地盤沈下した日本経済と水産の再活性化の方策を考えていきたいと思

一方、現代では情報解析技術の加速的発展が目まぐるしく、生物学・農学でもそれを担う次世代の技術者育成のための情報教育が盛んに議論されています。私も近畿大学農学部で生物情報解析の教育を通し、この世界の潮流をリードする人材輩

出に少しでも貢献したいと考えております。どうぞご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

前水産学科
教授 多田 稔

最後に、ウクライナ危機によって生じた世界的な食料危機や農林水産業のコスト上昇のように農学部にとってチャレンジングな状況になっていきます。農学部と緑友会の皆様の益々の活躍を祈念いたします。

食品栄養学科
契約助手 大森麻依子

緑友会の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。私は2020年4月より食品栄養学科の契約助手として着任し、2023年3月をもちまして退職いたしました。在職中、農学部の教職員の皆様には親切にご指導いただきましたこと、心よりお礼申し上げます。約3年間という短い期間ではありましたが、農学部で過ごす学生生活がコロナ禍であっても充実した時間になるようにという気持ちで勤務しております。また、対面授業が不可能な状況下で在学が不足なく学べる授業方法を模

索する中勤務できましたことは、非常に貴重な経験をさせていただいたと感じております。農学部食品栄養学科で勤務させていただきましたこと、誠にありがとうございました。最後になりましたが、近畿大学農学部ならびに緑友会の皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます。

前環境管理学科
准教授 森 美穂

緑友会の皆様におかれましては、お元気で活躍のことと存じます。本年3月をもって退職し、現在は関西大学に所属しております。平成22年4月からの13年間、農学部の学生の皆様、先生方や事務部の皆様には大変お世話になりました。あらためて御礼申し上げます。

農学部環境管理学科に赴任して最初の基礎実験実習で、調整池の周りにミミズを捕まえ、釣竿をセットして、調整池内の外来種ブルーギルの駆除をおこなったことを昨日のことのように思い出します。それまで実験室内で完結する研究をしておりまして、研究室の学生達と山や海などのフィールドに出て、植物やきのこ、ナマコなどを採取・同定する作業は新鮮でもワクワクする経験でした。農学部での教育活動を通じて学んだことは私の大切な財産です。ありがとうございました。

最後に、皆様のご発展をお祈り申し上げます。

去る4月1日、快晴の王寺霊園で植物学教室 故・平井篤造教授の墓参を行いました。出席者は一学年以上の玉城剛(堺市在住)、藤原稔彦(宝塚市在住)、中野真也(八尾市)、市口和彦(羽曳野市)、吉井昌宏



現在は生命保険会社のコンサルタントとして営業しています。経済的な安心を届けられるのがこの仕事の魅力です。研究で培った発想を活かしながら、相談相手として長い付き合いができれば冥利に尽きます。最後に、いつもよく話を聞き励まし続けてくださいましたこと、北山隆先生には感謝しきれません。守衛室や図書館の皆様にもお世話になりました。今後の農学部の発展を祈念申し上げます。

平成3年に他界された
恩師の墓参
昭和48年度 農学科 卒業
弓場 俊二

(兵庫県川西市)、私弓場俊二(大和高田市)の6名です。先生は平成5年8月に亡くなられ、まもなく三年となりますが、その指導される時の温かなまなざしは、決して忘れることはありません。

先生は、先の大戦でニューギニアに出征され、一〇〇〇人中五、六人しか生き残れなかった過酷な状況を生き残られたたくましい精神の持ち主です。墓参に参加した六名は旧交を温めるべく、近くにある老舗料亭で和やかな歓談に移って、来年の再会を期していました。お忙しい中、遠方より参加された皆様方に感謝申し上げます。平井先生も大変喜んでおられると思います。



去る4月1日、快晴の王寺霊園で植物学教室 故・平井篤造教授の墓参を行いました。出席者は一学年以上の玉城剛(堺市在住)、藤原稔彦(宝塚市在住)、中野真也(八尾市)、市口和彦(羽曳野市)、吉井昌宏

緑友会会報原稿募集のお願い

緑友会会報は、同窓生の皆様を結びつける年に一度の会報です。できるだけたくさんの方からの寄稿をお待ちしています。原稿の形式は特に問いません。お気軽にお寄せいただければ幸いです。緑友会事務局又は、研究室の先生宛にご送付下さい。



連絡先：近畿大学農学部 緑友会事務局
〒631-8505 奈良市中町3327-204
電話 0742-43-7273 (内線2030)
メールアドレス ryokujim@nara.kindai.ac.jp

緑友会へのご寄付のお願い

このたび緑友会は、会報発行をはじめ卒業生名簿の管理、緑友会賞の授与、現役学生の親睦レクリエーション開催協力などの緑友会活動のさらなる活動充実の為の原資として卒業生のみならずご寄付をお願いする次第です。経済状況が厳しい折に誠に恐縮でございますが、緑友会の現状をご理解頂き、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なおお寄付金は一口5,000円とさせて頂き、お一人様の上限はございません。お振り込みの際には、氏名、卒業年度を合わせてお知らせ頂きますようお願い申し上げます。(お手数ですが、お振り込み後にお電話またはメールで、ご住所、お名前、卒業年度をお知らせ頂ければ幸いです)

○振込口座
三菱UFJ銀行 富雄出張所 普通 3574857 近畿大学農学部 緑友会

○連絡先
近畿大学農学部 緑友会事務局 電話 0742-43-7273 (内線 2030) 電子メール ryokujim@nara.kindai.ac.jp

今後も会員相互の親睦を深め母校の発展に寄与して参りたいと考えております。どうかご支援賜りますようお願い申し上げます。

卒業生 だより

職場紹介

インターネットを通じて
農業界を豊かに
農業生産科(平成30年度)
水野 太智



学生時代に農業者の元で実習をさせて頂く機会があり、そこで「自分の知らなかった素晴らしい農業者がたくさんいるんだ!」そのことを世の中の多くの方々に知ってもらいたい!」と思い、卒業後は

全くの未経験だったIT業界へ飛び込みました。そして現在は2社目であるオイシックス・ラ・大地(株)という企業で、有機野菜や無添加加工食品等の安全性に配慮した食品・食材をインターネットを通じてお届けする仕事に携わっています。また、企業に勤めながら学生時代から関わりのあった追分梅林にて、OiwakeParkというキャンプ場を運営しています。これもまた自然溢れる素晴らしい環境を世の中に広めたいという想いから活動を始め、現在に至ります。OiwakeParkは近大農学部から徒歩圏内にありますので、良ければ気軽に遊びに来てくださーい!これからもインターネットを通じて、頑張っている農業者や食品加工業者の方々の力になれるよう、精進していきます。

仕事としての環境調査

農学研究科水産専攻(令和2年度卒)
横地 駿

私は学部・修士ともに水産環境学研究室に所属し、海水域の細菌群集構造解析をしていました。その中で学んだことを社会で活かそうと思い、株式会社KANISOテクノスに入社して3年目となります。現在の主な業務内容は、海域の環境アセスメントとモニタリングです。周辺地域や海域に影響を及ぼす構造物が建つときは国や自治体の定めた手続き、さらに地元有識者の方々の要望によって事前の環境調査や事後のモニタリングが必要となります。私の所属している部署は調査の計画策定から現地調査(ときには分析も)、解析、および報告書作成まで一貫して行っています。また、学生時代に



学んだ分子生物学が生きる場面も多く、深海堆積物中の細菌群集解析や、環境DNAによる魚類相調査なども業務として行っています。調査シーズンは出張も多く、非常に忙しいこともあります。しかし、調査のスタートからゴールまで関われることができ、その分地元の方々・行政の方々など関われる人も多く、学びもたくさんあり、やりがいを感じています。

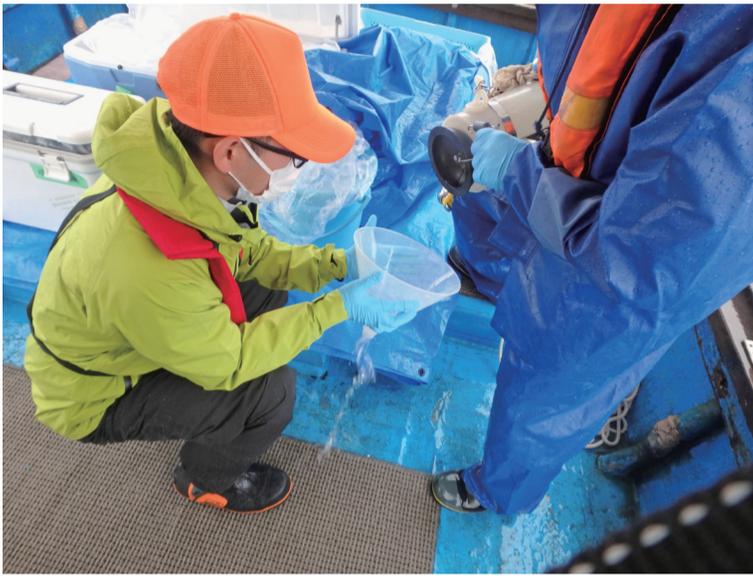
持続的な森林経営

農学研究科畜産生命化学専攻(平成30年度卒)
吉光 孝輝

私は株式会社ウッドワンという広島県に本社を置く建材メーカーに勤めています。私の主な業務は木質材料の試験・開発を行っています。木材という金属などとは異なる生物資源を相手取っており、生物資源ならではの「一筋縄では

笑顔を
給食で子どもたちを
笑顔に
食品栄養科(平成25年度卒業)
河野 博子

栄養教諭になって十年目となった私は、現在王寺町立学校給食センターに勤務し、毎日約二五〇〇食の給食を提供しています。献立作成や食材の発注、調理場の衛生管理、アレルギー対応、食に関する指導が主な業務で、子どもたちの「おいしい!」の笑顔に元気をもらい、楽しく仕事をしています。



はいかない部分もありますが、木材ならではの魅力や自分が関わったものが世に出ていくことに充実感を感じております。ウッドワンはニュージラで森林を保有しており、苗木を植え、木が成長したら伐採し製品に使用、再び苗木を植えるというサイクルで森林経営を行っています。植林から伐採まで30年かかります。義務教育学校という小中一貫教育を行う新たな学校を開校し、さらに給食センターも新設するというタイミングでした。先生方や調理員さん、教育委員会の方々と連携し、新センター立ち上げという大仕事を経験しました。昨年度から新センターが稼働し、給食がおいしくなりました。新メニューの開発にも取り組んでおり、子どもたちにも好評で、嬉しい限りです。

奈良県職員としての 意気込み

農学研究科環境管理専攻(令和4年度卒)
中筋 安祐美

私は今年、奈良県庁に林学職として入庁しました。この職業を志望したきっかけは、奈良県の森林や林業に関することについて勉強していくうちに奈良県に魅了されたこと、大学での学びを活かして仕事をしたいと強く思ったためです。現在は中部農林に配属され、森林共生推進課という部署で、主に森林整備や林業普及に関する事業を上司と一緒に担当しています。担当業務の一つとして「混交林誘導整備事業」に携わっています。これは、人工林の施設放棄状態を解消し、針広混交林に誘導することにより森林の防災力強化を図るための事業です。このように防災機能の高い森林づくりをすることで、県民が生活していくうえで安心や安全の確保につながる事業に携われていることにやりがいを感じています。

が、森林を1年生・30年生の30区画に分け、30年生の区画で伐採した後はまたそこで植林を行い、持続的な森林経営を実現しています。脱炭素や環境保全、資源の枯渇への警鐘が鳴らされる昨今、私はこの取り組みに会社が発展していく将来性を感じ入社を決意しました。皆様もそれぞれの価値観に合った会社選びをしてみてください。

サントリーフラワーズ株式会社

農学研究科バイオエッセンス専攻(平成30年度卒)
繁田 修佑

私はサントリーフラワーズ(株)に勤めています。サントリーが花?と疑問に感じるかもしれませんが、サントリーでは酒類で培ったノウハウをもとにお客様に花のある暮らしを提案してきました。サントリーフラワーズでは、花苗・野菜苗・青果物・切り花・観葉植物を取り扱っています。私は、園芸事業の生産部に所属しています。主に花苗を担当し、全国の農家さんとお店に置いて頂く苗を作っています。北海道から沖縄県までどのお店で購入された苗も同じように育ち、楽しさを



感じてもらうことが目標です。植物は会話できません。しかし、伝えてくれる情報はあります。葉色、芽の吹き方、成育速度など、植物が伝えてくれるメッセージを読み解きます。とても難しいですが、植物からのメッセージを理解でき、苗が極上の仕上がりになったとき、素晴らしい達成感があります。さらに、お客様から商品への喜びの声を頂いた際は、言葉にはできない喜びを感じます。しんどい時もありますが、学生時代にイネやタバコに触れ、そこで得た知識や経験が自信となり今に役立っています。これからも全国の消費者の方々に喜んでもらえるよう頑張ります。

在学だより

研究室で得た経験

農業経営経済学研究室 4年生
福渡 智咲

農業経営経済学研究室では、近畿大学が全学的に行っている東日本大震災からの復興支援の一環で、約5年前から福島県川俣町を定期的に訪問し、各種の連携活動を行っています。私は3年生の時に何度も川俣町を訪問し、農業インターンシップに参加したり、川俣町の地域資源（川俣シヤモ、日本酒、イチゴ等）を活用した商品開発（かまわた



パーカー、かまわたジェラート等）に関わる機会を得ました。そこで、農業を通じた地域活性化について興味を持ち、より地域の農家さんと関わりたいと感じました。

4年生になった今年度も農業インターンシップや商品開発の関係で川俣町を訪問する予定です。そこで、さらに地域の農家さんと関わり、地域活性化に必要なことを考えていきたいと思っています。また、卒業研究のテーマを「地域資源を活用した商品開発と地域活性化」に設定し、川俣町との連携活動の内容も盛り込みながら、卒業論文を執筆していきたいと考えています。

充実した研究生活

応用生命科学科
応用微生物学研究室 4年生
白石 友梨子

入学時にコロナが流行し、制限の多い生活に不安や虚しさを抱えていましたが、コロナが収束し、研究生活が始まってからは、そんな思いも忘れてしまうほど忙しく充実した日々を送っています。

私は、ある乳酸菌株と肥満との関係性を検証する研究を行っています。確立されていないことも多く、日々トライアンドエラーの繰り返しです。その中で研究が楽しいと思えるのは、主体的に取り組むことの楽しさや、多方面で成長できていることの実感、研究室の同期や先輩、先生方の人柄からくる居心地の良さが大きな理由だと思います。

昨年、3年生になった私の学生生活は大きく変化しました。対面での授業、研究室での活動、夏には就職活動が始まり、あつという間に時間が過ぎました。目まぐるしい日々の中で、忙しくて、しんどいと感じる時も、心どこかにはいつも「楽しい」という気持ちがあります。当たり前に登校出来ること、頼れる仲間と出会う、楽しいことも大変なことも一緒に経験

オンライン授業から始まった学生生活。対面授業が楽しくなったと思えば、あつという間に4年生。そんな中、今でも続けているのはオンライン授業の合間に始めた家庭菜園です。野菜の廃棄部を土に還し、資源を有効活用しています。

SDGsと学内連携の活性化への願い

食品栄養学
公衆栄養学研究室 4年生
浅見 結子

卒業研究でも同様に、SDGsの観点で何か世の中の役に立つことはできないかと模索している中、出会ったのが「いちごの葉」。いちごは奈良県の特産品で「アスカカルピ」や「古都華」など、様々な品種が栽培されています。しかし、いちごの収穫後、葉は処分されてしまうことを知り、この廃棄されるいちごの葉を活用できないかと思い、農業生産学が栽培されているいちごの葉の有効性について研究することにしました。この研究の成果が、奈良県の地域活性化や食の循環の観点から世の中

に貢献できると嬉しいのです。農学部には属する食品栄養学からこそ、他学科で開発された新しい品種の栄養機能性や有効活用方法の研究が可能だと思えるので、今後も「産地消」ならぬ、「学産学消」が可能となるよう学部内の連携が密になることを願っています。



夢がなくても大丈夫

環境管理学科
環境政策学研究室 4年生
安岡 恵汰

入学当初、私には何も夢がなく、近畿大学に来た理由は「自然が少し好き」ただそれだけでした。環境管理学科を選んだのも「自然にたくさんふれあえそう」というパツとしない理由です。

私が大学3年生になりこれまで振り返って感じたことは、時の流れの早さです。私の好きな映画の作中に「光陰

3年生になって

生物機能科学科
動物学・遺伝学研究室 3年生
木村 奏心

私が大学3年生になりこれまで振り返って感じたことは、時の流れの早さです。私の好きな映画の作中に「光陰



研究室のシンボルパーカー

職か、進学かの選択に迷う時期がありました。就活も同時に進める中で、少しずつ将来やりたいことが見えていき、院進学を決めました。迷った時間も気持ちを整理する上で



大切だったと思います。現在は、進学準備を進めつつ、研究に取り組んでおり、研究生活を、悔いの残らないよう全力で取り組んでいます。

緑友会名簿訂正(変更)届

氏名	卒業学科	年度
所属研究室		
現住所(〒)		
勤務先(〒)		

住所等間違っていた、あるいは変更がある場合、この用紙を緑友会事務局までお送りください。お電話、メールでお知らせいただいても結構です。
連絡先: 〒631-8505 奈良市中町3327-204 近畿大学農学部 緑友会事務局
電話 0742-43-7273(内線2030) メールアドレス ryokujim@nara.kindai.ac.jp

近畿大学校友会 食品支部 会員募集中!

一支部概要

設立 平成26年6月7日
支部長 酒井 恵二
年会費 10,000円
会員数 119名 (令和5年4月1日現在)

連絡先 【事務局】

立花容器株式会社
岡山県小田郡矢掛町浅海385-1
TEL 0866-82-3300

食品支部は、食品関連産業に従事する近畿大学校友会によって組織された『母校近畿大学の発展、会員相互の親睦と学びあい、ビジネスチャンスの繋ぎ』を目的とした校友会専門職支部です。

食品メーカーだけでなく、広く全国の農林水産業・飲食・小売・流通・機械・設備・梱包資材等、食品産業全般から参加を募っております。

昨年度も長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、活動自粛を余儀なくされ以前の様な活動は出来ませんでした。今年度より規制も緩和されますので、感染予防を意識して総会や研修旅行などの活動を再開していきます。ご校友の皆様との輪が広がり、新たなビジネスチャンスに繋がる様、当支部活動へのご参加を心よりお待ちしております。



2022年6月19日に3年ぶりとなる総会を開催し、66名にご参加いただきました。

近畿大学校友会 食品支部 Facebookのご案内
公式Facebookを開設しております。校友会食品支部の様々な活動や情報をお届けしています。近畿大学校友会 食品支部 検索

矢の如し」という言葉が出て来るのですが、入学してからこれまでの時間は、まさにその言葉通りでした。1年生の頃は、コロナによりオンラインで授業を受け、家に引き籠もりっぱなしで自堕落な生活を続けてしまいましたが、1年生を終了。そして2年生になり、「夏、早く終わらないかな」とぼやいていたのも束の間、また気づいたら12月になっており年も明け、2年生終了。そして今、この2年間の振り返りが、何となく達成感を感じることが重要だと思えます。ただ、今感じている気持ちを無駄にしないためにも、これから大学生活は時間を意識して頑張っていきたいと思

大学院生だより

近畿大学と 奈良県曽爾村の連携

農業生産科学専攻博士前期課程
農業経営経済学研究室
田原 ほの花

私が所属する農業経営経済学研究室では、大学と地域の連携をテーマとした研究と実践活動(大学と地域の連携によるアグリビジネスの推進や地域活性化などを目指す活動)を行っています。近畿大学が包括連携協定を締結している奈良県曽爾村との連携プロジェクトでは、規格外トマトを使用したトマトソースの開発や、ほうれん草のレシピブックの作成、マルシェの支援などの活動をこれまでに行ってまいりました。



そして、今年度からは新たな連携活動として、近大関係者による曽爾村産農産物の共同購入(CSA)の活動が始まります。私はこのCSAの活動に携わり、また、修士論文のテーマにも設定して研究も進めていきます。CSA (Community Supported Agriculture) とは、前払いによる農産物の契約を通じて生産者と消費者が相互に支え合う仕組みのことです。CSA についての研究と実践を通して、農業経営や地域活性化に関する知識や経験を増やし、有意義な院生生活を送ることができるよう努力したいと思っています。

世界最先端の研究

応用生命化学専攻博士前期課程
生物制御化学研究室
高山 浩一

学部3年生の時に生物制御化学研究室を訪れた際、「30年以上実現していなかった昆虫の神経受容体の機能的発現に世界で初めて成功した」とことを知りました。薬が生物にどのように作用するかに興味を持っており、この分野で世界と競う研究がしたいという思いから、この研究室で昆虫への薬の作用機構について

研究する決心をしました。これまで昆虫のみ作用する安全な農薬が開発されてきましたが、さらに近年では、ミツバチなどの非標的昆虫に対する影響が懸念されています。私はこの根本的原因を明らかにするため、農薬が昆虫種にどのように作用するかを詳しく研究しています。

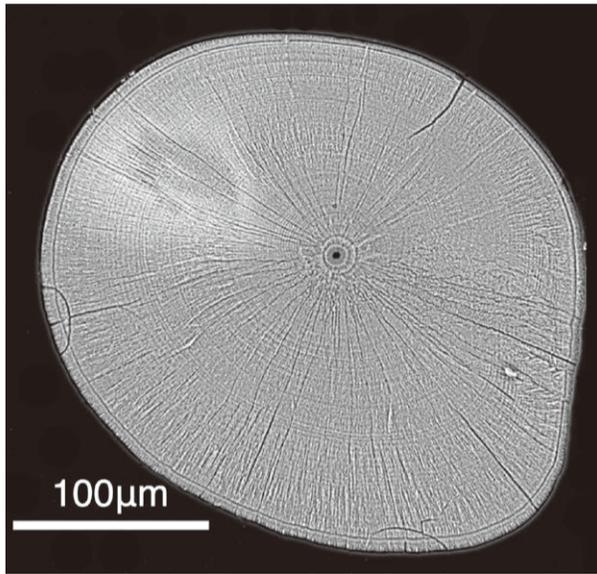
先生や仲間の助けを借りながら、世界を切り拓くために仮説を立てて日々検証しています。うまくいかなかった場合は、何が原因なのか、次は

小さな耳石から 壮大な二ホンウナギの 初期回遊の研究へ

水産学専攻博士前期課程
水産生物学研究室
宮武 航大

日本から約3000kmも離れたグアム島西方沖で二ホンウナギは生まれて、海流に輸送され、約半年かけて日本へ辿り着きます。私は、宮崎県の清武川の河口へ加入したシラスウナギの内耳にある耳石とよばれる炭酸カルシウムの結晶を取り出し、これを研磨して断面を顕微鏡で観察しています。すると、掲載写真のように耳石内に輪紋を確認することが出来ます。この輪紋

は毎日1本ずつ増えるので、輪紋の総数から個体の孵化日がわかります。さらには、その孵化日をもとに海流シミュレーションを駆使すると、それぞれの個体が産卵場から日本へどのような経路で到達するかを推定できます。わずか200μmしかない小さな耳石から、このような壮大な回遊の研究ができることに感銘しています。



どう進めるべきかを考え、相話し合いながら検証を繰り返しています。そうすることで

いつか新たな発見ができると信じ、研鑽しています。



族も長年悩まされてきました。このことから、予防改善効果を示す食品を調べ、患者の方の生活の質の向上に貢献することを目指しています。



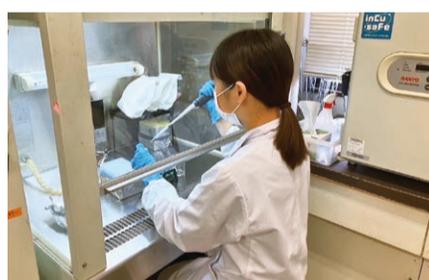
これからの2年間

応用生命化学専攻博士前期課程
病態栄養学研究室
立花 楓香

私は社会に貢献できる研究をすること、また研究活動を通して誰かの役に立てる人になることを目指して今年度から大学院に進学しました。

私はアトピー性皮膚炎に関する研究を行っています。アトピー性皮膚炎は肌荒れと痒みによる生活の質の低下が問題となる病気で、私自身や家

また、卒業研究を通して自身自身の得意なことや苦手なことを改めて知ることが出来ました。修士研究では苦手なことにも向き合いながら、日々よく学び、考え、行動し、いずれ社会の様々な場面において誰かの役に立てる人になりたいと思っています。



見分を深める2年間に 環境管理専攻博士前期課程 水圏生態学研究室 米口 未来

私はゴルフ場の池とその周りを対象に生物調査を行っています。環境破壊のイメージが強いゴルフ場ですが、近年では自然を豊かにする空間となっているのではないかと、といった研究が進んでいます。ゴルフ場は樹林、草原、池など多様な環境を有しており、これは人間の働きかけで生まれる里山環境と類似しています。



私が終わろうとしています。一日一日は長く感じますが、月が替わり、季節の変化を感じると2年間は瞬間の間であると改めて感じます。課程修了までにどれ程成長できるのか、何を求めるのかは未知数ですが、これからも大学院生として研究に励み、可能な限り多くの経験を積みみたいと考えております。

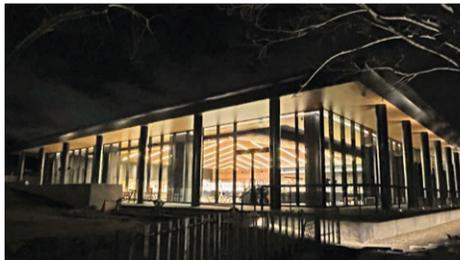


たいへんだけど、それが良い

バイオサイエンス専攻博士前期課程
分子生物学研究室
山口 和宣

私は卒業研究で、サルモネラ菌の病原性調節に関わる情報伝達システムを活性化させる、それまで未知であった外的因子を同定しました。さらに大学院では、この活性化誘導因子を利用した細胞内での病原性調節機構の解明に取り組んで

ています。この情報伝達システムは病原性に関与する遺伝子発現を調節することから、本研究は創薬への応用の可能性も秘めています。ミクロの世界に未知の要素があり、日々の研究は困難ばかりですが、研究室の先生や友人に支えられ、少しずつ進歩していきます。面白い訳がありません。気がつけば、もう一年の半



南スペインでの在外研究

農業生産科学科
准教授 小枝 壮太

2022年度の在外研究員として、スペイン南部・マラガ近郊にあるスペイン科学技術最高評議会(CSIC)の地中海熱帯園芸研究所(IHSM)に2月から約半年間の期間で渡航させていただきました。IHSMでは植物ウイルスの研究として活躍されている Enrique Moriones Alonso 博士に受け入れていただき、ウイルスの媒介昆虫に対するトラライコム(植物の葉の表面などにある微細な突



す。さらに現在のゴルフ場は農薬類が嚴重に適正化され、外来生物が持ち込まれにくいなど、生物にとって住みやすい環境が整っています。実際に一部のゴルフ場では、絶滅危惧種の生物が確認された事例もあり、生き物の生息・生育場所としての期待が高まっています。

現在行っている研究のよう起)による害虫抵抗性と、ウイルス抵抗性の両方を持つトマトを用いた病害防除についての研究に従事しました。また、生活面ではIHSM内の家族用宿舎に入居することができたので、午後は子供と広い研究所内を散策しながら野菜、果樹、野生植物を見て回り、自然と触れ合う機会が多かったです。スペインで体験した研究の取り組み方、仕事と生活のバランスなどを今後にかかしていきたいと考えています。

緑友会ゴルフコンペ

令和4年9月11日(日)に第7回、令和5年3月5日(日)に第8回の緑友会ゴルフコンペを開催しました。コンペの開催は、3月と9月の第1日曜日を基本としています。3月のコンペは、天候もよく、スコアもよく(9月と比べると)、気持ちよくスイングできます。一方、9月のコンペは、暑く、スコアは悪く、気持ちわるいスイングになります。そこで、9月開催のコンペを、本年度から10月の第1日曜日に変更させていただきます。これでスコアはよくなります。



京阪カントリークラブ(9月11日)



加茂カントリークラブ(3月5日)

3月のコンペは加茂カントリークラブ、10月のコンペは京阪カントリークラブで開催されています。ご自分の腕を試したい方、これからゴルフを始めようと考えておられる方、ご家族やご友人の参加も大歓迎です。皆様からの連絡をお待ちしております。

農学部祭の案内

今年も毎年恒例となりました「農学部祭」の季節がやってまいりました。今年の農学部祭は11月1日(水)から11月3日(金・祝)までの3日間開催する予定です。日程におきましては、1日を、在校生を主体とする体育祭を、2日・3日を、一般来場者を含む文化祭を行う形になっております。文化祭においては、昨年度同様、今年度も対面開催を検討しております。農学部祭の企画として、毎年恒例の大型ステージにおけるお笑い芸人の漫才やアーティストライブ、在校生に参加を募りジャンルを問わないパフォーマンスを披露していただくパフォーマンス大会、校内を回りスタンプを集めるスタンプラリーなど賑やかな行事を検討しています。近年恒例となっているeスポーツ大会を今年度も開催予定です。また、今年度も各研究会系クラブ団体の展示会や部活の模擬店、マグロの解体ショーを初めとする収穫祭も検討しております。卒業生の皆様方や地域住民の方々、在校生全員が楽しめる農学部祭を農学部祭実行委員会が中心となり、農学部生一丸となって作り上げていこうと思います。当日の皆様のお越しを学生一同、心よりお待ちしております。コロナウィルスの感染状況により農学部祭を中止する場合がありますので、ご了承ください。詳しくは、HPをご覧ください。



第13回KINKAN会 イベントを終えて

食品栄養学科の卒業生による「KINKAN会」イベントを令和4年11月3日に開催しました。今年度はイベント開催にあたり感染予防対策に努めた上で、オンラインと大学構内の会場の両方を用いたハイブリッド形式でおこないました。

今年度のテーマは「転職・キャリアプラン」として、事前に実施した卒業生の転職に関するアンケートの集計報告と、転職活動後に求人広告代

理店に勤務されている卒業生とフリーランスの管理栄養士として働く卒業生の2名にご講演いただきました。

卒業生の転職に関するアンケートには143名の方に回答頂き、半数以上に転職経験があるなど卒業生の転職に関する状況を知る機会となりました。

求人広告代理店勤務の卒業生からは、最近の転職市場について「求職者側目線」と「会社側目線」の2つの観点

からご講演いただきました。また、フリーランスの卒業生からは現在の活動内容やこれまでの経験、転職を考えた理由、転職活動の際に行った事などを具体的にお話していただきました。

今回、ハイブリッド形式にすることで、忙しい子育て世代や遠方の卒業生も参加しやすく、現地参加者も久々に顔を合わせて集まることで充実したイベントとなりました。そして、今回のイベントも昨年度同様、当日参加できなかった方の為に「見逃し(オンデマンド)配信」を行いました。

お忙しい中ご参加ください



第13回KINKAN会イベント報告

緑友会Facebookのご案内！！

- 農学部情報や卒業生の活躍など掲載
- 卒業生向けイベント情報も発信
- 母校の成長をリアルタイムで確認

ぜひシェアをお願いいたします！ → → →



【緑友会公式Facebook】

令和4年度 近畿大学緑友会農学部祭 イベントを終えて

令和4年11月3日、農学部奈良キャンパス・つながる館において、緑友会農学部祭イベントを実施しました。当日は、緑友会の森本正則会長の案内による農学部新エリアの見学ツアーの後、2名の農学部教員と3名の卒業生に「大学と一緒に仕事をすること」をテーマにご講演をいただきました。農業生産科学科の野々村照雄教授には、なら近大農法 (ICT農法) を用いたメロンとイチゴの栽培事例に加えて、産官学連携で行った商品開発やSDGsへの取り組みなど幅広いお話をいただきました。応用生命化学科の財満信宏教授には、稲畑香料(株)との共同研究によって、生活習慣病を予防できる植物成分を同定したことを分かりやすくお話していただきました。稲畑香料(株)の松村晋一氏(平成2年度卒)には財満教授と、京都リフレ新薬(株)株式会社の森川瞬氏(平成18年度卒)には森本会長との共同研究の成果が商品化されるまでの過程を紹介していただきました。京都府立桂高等学校の山下敦子教諭(平成10年度卒)には、出身研究室との高大連携研究を通じたキャリア教育の在り方についてのお話をいただきました。本イベントは、卒業生に加え、卒業生の家族や在校生、一般来場者など多くの方にご参加いただき、盛況のうちに終わることができました。緑友会は、今後も卒業生と大学をつなぐイベントを企画していきたいと思っております。



令和4年度 近畿大学農学部緑友会事業報告			令和4年度 近畿大学農学部緑友会決算 <卒業者部会> (単位:円)			
月日	項目	場所	収入の部		支出の部	
4月12日	運営委員会	第一会議室	前年度繰越金	7,394,758	郵便費	1,427,391
5月11日	終身会費納付書発送(616通)		終身会費(理延8名分)	80,000	印刷複写費	1,449,195
6月18日	幹事会	第一会議室	終身会費	3,700,000	会議会費	13,826
	1) 令和3年度事業報告		広告掲載料	60,000	人件費	992,992
	2) 令和3年度決算報告		同窓会活動助成金(2回×50,000円)	100,000	緑友会賞	150,000
	3) 令和4年度事業計画(案)		同窓会活動支援金(11/3緑友会イベント)	28,010	雑費	53,205
	4) 令和4年度予算(案)		寄付金	5,000	6学科への補助金(4年生627人)	627,000
5) その他	利息	62	緑友会イベント(11/3)	28,010		
8月19日	終身会費納付書2回目発送(407通)		合計	11,367,829	合計	4,741,619
9月11日	緑友会ゴルフコンペ	京阪カントリークラブ	次年度繰越金	6,626,210		
9月13日	会報第27号会員へ発送					
11月3日	緑友会イベント 講演会開催	つながる館				
令和5年						
1月10日	終身会費納付書4回目発送(309通)					
2月7日	終身会費未納者を6学科に通知					
3月5日	緑友会ゴルフコンペ	加茂カントリークラブ				
3月7日	委員会	C会議室				
3月16日	緑友会賞授与					

会計幹事 武田 徹 会計幹事 永田恵里奈
上記のとおり、監査いたしました結果適正であります。
2023年3月31日

監事 小林 徹
 谷 哲弥